

令和7年度 後期 教育アンケートから

令和8年3月
京都市立七条小学校
校長 新田 淳

2月に実施しました「教育アンケート」にご協力いただきありがとうございました。今回も、約60%（対児童数）の方々から回答をいただきました。（前期より少し減少）

後期のアンケートでは、全体の肯定率は前期とほぼ同水準（約95%）で推移し、学校生活への安心感や意欲が継続して高いことが分かりました。

一方で、設問ごとに見ると、伸びた部分と課題が見られる部分がよりはっきりと表れました。

A…できている・よい・思う・わかる 等 B…大体できている・まあ思う 等
C…あまりできてない・あまり思わない 等 D…できていない・思わない 等



※全てのアンケート結果はこちらから

<https://cms.edu.city.kyoto.jp/104500/document/1780948?year=2025>

楽しさを実感し、学ぶ意欲へ

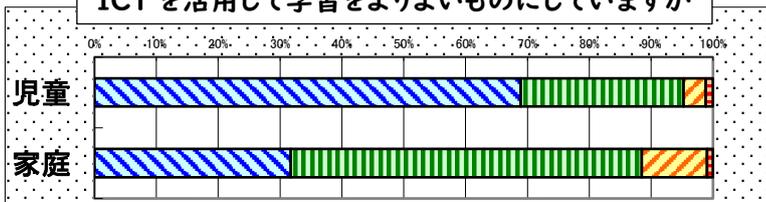
「学校は楽しいと思いますか」という質問では、後期は91.7%の児童が肯定的に回答し、前期からはわずかに減少したものの、依然として高い割合を維持しました。

一方、保護者の肯定的回答は94.7%と、児童より高い傾向が見られました。前期では「家庭で子どもが語る“不安や悩み”も含めて受け止めていただいている」とお伝えしましたが、後期も同様に、子どもの日々の揺れ動く気持ちに丁寧に寄り添ってくださっていることが、こうした結果に表れていると感じます。

たてわり活動などの児童会活動の充実に加え、学ぶ楽しさ、集団で高め合う



ICTを活用して学習をよりよいものにしていきますか



ICTを活用して、よりよい学びへ

ICTに関する設問では、児童、保護者とも肯定的な回答が前期より大きく上昇しました。特に、保護者回答では、前期より20ポイント近く上昇しました。



しかし児童と保護者では前期以上に大きな差が見られ、児童は「わかりやすい」「意欲が上がる」と実感する一方で、保護者の方には「家庭では学習効果が見えにくい」「持ち帰りが少なく使っている様子が分からない」といった状況が続いていたことが一因と考えられます。実際、自由記述欄でもそのようなご意見をいただきました。2学期以降、新しいiPadの導入が進み、授業の

さまざまな場面で写真・表・動画などを活用した記録や発表が増え、子どもたちの学習の幅が広がってきました。こうした取組をより「家庭に伝わる形」にしていくことを強く意識していきたいと思います。

「話す」「聞く」でつながる学び

本校研究テーマ「よく聞き、すすんで話す子」に関わる設問では、前期同様、児童は 85%前後が肯定する結果となりました。

一方、保護者は 約 22% と低めで、前期から大きく傾向は変わりませんでした。これは、子どもたちは、授業中の「聞く・話す」の積み重ねを自分なりに実感しているものの、保護者は、より高いコミュニケーション力を期待しているという“期待と自己評価の差”が背景にあると考えられます。しかし、児童の自己評価の高さは、「伝えよう」「聞こう」という意欲が定着してきた証でもあります。

今後も、互いの考えを尊重しながら対話する授業づくりをさらに進めていきます。



「守る力」を育てる—安全・防犯への意識—

「交通ルールを守る」「危険行動をしない」といった安全に関する項目では、児童も保護者も 90%以上が肯定的で、学校・家庭での声かけや見守りの成果が表れています。

一方で、子どもは「危険だと分かっているが無意識に行動してしまう」場面もあるため、引き続き、学校では年間を通した定期的に多様な状況を想定した安全指導、校内の安全点検、危険予知活動等を重ね、自分の命を自分で守る力を育ててまいります。

「学年担任制（チーム担任制）」について

本校では、次年度より一部の学年から「学年担任制（チーム担任制）」を段階的に導入します。そこで、保護者の方や子どもたち（2年生以上）にもチーム担任制について尋ねました。児童、保護者ともに、70%を超える肯定的な回答が見られました。

これらの結果から、“複数の目で子どもを支えること”“教員同士の協働による安定した学級経営”という期待が保護者の方の中にも広がっていることが分かります。

一方で、初めての取組ということもあり、「どちらともいえない」「わからない」という回答も一定数見られました。これは、「子どもの変容」「担任との関係性」「教員間の連携」等、“見えにくい部分への不安”が背景にあると考えられます。

いろいろな意見に耳を傾けながら、必要に応じて見直し・改善し、このシステムをよりよい形に育てていきたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

	よい	まあいい	あまりよくない	よくない	わからない
児童	50.5%	26.0%	8.6%	7.3%	7.6%
家庭	33.7%	40.6%	8.4%	1.5%	15.8%

